

## NEWS &amp; TOPICS

## 平成24年度 宮崎学園短期大学保育研修会

保育現場の先生方と共に学ぶ保育研修会も4年目を迎えました。

本年度の第1回はオーストリアのザルツブルグから、世界的に著名な音楽教育家カール・オルフが設立した『モーツアルテム芸術大学オルフ研究所』で、教授として学生や子どもたちの指導に当たっておられる菅田真理先生と、現地で声楽家として活躍されているデイトマー・エダー先生をお迎えして7月15日(日)に開催しました。参加者の方々は、身体全体で音楽を感じることや、様々な声を使った楽しい活動を体験されました。その様子から、ご自身の現場でも日頃から、子どもさん達と楽しく音楽活動をされているのではないかと想像できる、豊かな表情でいっぱい講座でした。

第2回は11月25日(日)に、本学附属みどり幼稚園園長・本学准教授の和田政吉先生による講話「保護者対応のありかた」、本学准教授の守川美輪先生による演習「畑のはなし(製作と表現)」の内容で開催いたします。

保育研修会担当：中武 亮子



## 平成24年度後援会役員

さる6月28日に、平成24年度第1回後援会役員会を開催いたしました。

平成24年度後援会役員には以下の方々にご就任いただきました。

会長 有田 秀明  
副会長 穴井 雅之 宗和 太郎  
顧問 山下 忍  
理事 漆島 基明 中村 典子 土肥 徳男  
成合 ひとみ 山下 恵子  
黒木 國泰 野崎 豊子  
会計 星崎 博子 横山 篤博  
監事 時任 育美 押川 智美  
書記 櫻川 律江 森山 裕文



## 子育て支援セミナーを開催しました

子育て支援セミナーは、0歳～就学前の子どもと保護者を対象に学内で開催しているイベントです。今年度は7月23日(月)～25日(水)の3日間、「わくわくコンサート」「親子ふれあい音楽あそび」「さわっていれてひっぽってあそぼう」「野菜のおはなしあそび」の活動の他、ミニ講座「子どもと一緒に親も育つ」「おやつアドバイス」を実施しました。3日間で76組170名の方にご来場頂き、本学の子育て支援活動が次第に地域の皆さまに伝わってきていると感じています。

参加者からは、「コンサートで演奏された楽器の幅も広く、子どもだけでなく親もとても楽しめました。」「3ヶ月の子どもの参加でしたが、楽器遊びなどがあり、とても楽しめました。目をキラキラさせていました。」「工夫次第で遊びが広がります。」「あたたかい言葉のかけ方を学ぶことができました。」「講義も分かりやすく、改めて子育てをがんばろうという気持ちが高まりました。」「学生さん達が1年生の頃からこんなに子どもの相手が上手なことに感心しました。」などの感想が寄せられました。

セミナーには18名の学生が受付や誘導のほか、自由遊び援助、楽器の演奏、パネルシアター実演等で参加しました。学生の気配りと頑張りには素晴らしく、積極的に子どもや保護者と関わっていました。このセミナーを好評のうちに終えることができ、貴重な経験となったことを学生とともに有難く思っております。

担当：守川 美輪



宮崎学園短期大学マスコットキャラクター

## 11 後援会だより

October 2012 Vol. 19



集中講義  
「音楽療法実践・音楽療法実践Ⅲ」

## 学長所感

## お互いに、夢多く生きていきたい。

学長 山下 忍

深い感動が紡ぎ出す余韻は、少々の時間の経過では消えようありません。

去る9月初旬の3日間、本学教職員・学生も数多く関わりながら、日本音楽療法学会学術大会が宮崎の地で開催されましたが、その2日目に上演された、本学音楽科生・本学附属幼稚園児を中心とする「ぞうれっしやがやってきた」は、全国の千数百人の学会員及び大変な数の県民に大きな感動を呼び起こすものでした。幼い子供達が、自分が今何を為すべきかをしっかりと心得て、全力で手を打ちふり、歌声を響かせて演ずるミュージカルに、大会会長として来賓席にある日野原重明先生も、その横手に座っておいででの河野俊嗣県知事も、惜しみない拍手をおくっておいででした。そして、今一つの大きな感動が日野原先生のご講演。世界的に著名な方の講演であるとか、文化勲章受章者の講演だとか、そんなことではなく、永くながく高い志を抱き、お若い時も、百歳を越えた今も、絶え間なく夢を追い求めながら生きておいでになった人間そのものとしての



ご講演は、耳を傾け、目を注ぐ全ての人々に例えようもない感動を与えていただきました。誕生したその時から、遂に101歳におなりになった今日までを、しばしば歌とユーモアをまじえながらお話いただきましたが、そのお話しに根底にあるのは、感謝と志、そして、果てしなき夢の追求でした。幾度もの長期の病臥生活も、それがあから今があると語られました。病氣もまた感謝の対象、予定の1時間をオーバーしながら、ステージで軽やかに思いを語られる姿は、同じ生き方は無理だとしても、せめて、その真似ごとはしてみたいと、そんな思いを掻き立てるものでした。人生は疑いようもなく一度つきり。ならば、やはり、夢を失うことなく生きてみたい。自分なりに己の志を抱きながら生きてみたい。共に歩く学生達も、より一層の夢と志を抱きながら一度つきりの人生を送ってほしい。今は、そうした思いが、しきりに、かつ強く湧いています。

## 宮崎学園短期大学フェスティバルのご案内

今年も短大フェスティバルの季節がやってきました。本学で展開されている教育内容を広く県民の皆さまに紹介すると共に、教育的な遊びを通じて皆様のお役に立ちたいと企画いたしました。

開催日程及び開催内容は右の通りです。皆様方のご来場を心からお待ちしています。

## 保育科

■10月27日(土) 10:00～15:00  
本学交流センター

\*秋の忍ヶ丘祭と同時開催です。

■12月1日(土) 10:00～15:00  
イオンモール宮崎 2階イオンホール  
積み木遊び、親子体操、パズルゲーム、ダンス、パネルシアターなど

## 初等教育科・音楽科・人間文化学科

\*今年は3学科合同で行います。

■12月8日(土) 10:00～15:00  
イオンモール宮崎 2階イオンホール

読み聞かせ・アンパンマンと遊ぼう・クッキーづくり・医療用語クイズ・健康チェック  
ヘルス&マナー講座・ミニコンサートなど

# 各学科 学生の輝き

## 全国に発信したミュージカル!

音楽科長 末平 浩康

暑い夏!熱いコンクールの闘いの夏が終わり、9月初旬、日本音楽療学会学術大会が、宮崎市のシーガイアコンベンションセンターで3日間にわたって行われました。県民講座には、県外から約1300人、県内からも2000名近い人たちが、特に、日野原重明氏の講演を聞きに集まってこられました。日野原氏の講演の後に、私たち宮崎学園短期大学が取り組んでいるミュージカル「ぞうれっしゃがやってきた」の公演が行われました。附属みどり幼稚園年長園児・教諭、短大学生・教員、そして地域の一般合唱団、混声宮崎カノンコーラスの三位

一体のステージは、感動的なものとなりました。本番3日前に、リハーサルをやった時、“本番は大丈夫かな?”というような思いが少しよぎりましたが、本番は、そんな心配は無用でした。今までも大坪記念ホールで公演を重ねてきましたが、3000人もの聴衆の前での演奏は初めてでしたので、音響のことやいろんなブレッシャーがあったと思いますが、園児、学生、大人が普段以上の力を発揮し、聴衆の心に届くような演奏をすることができ、今、みんな満足感に浸っております。学生個人の活躍も例年続いています。下記がその結果です。



### 全日本ジュニアクラシックコンクール 全国大会大学・管楽器部門

第1位: 田部 富貴子(音楽科2年、チューバ)  
奨励賞: 弓削 なつみ(音楽科2年、フルート)

### 日本クラシック音楽コンクール 全国大会出場

星崎 明里(音楽科1年、ピアノ)  
杉田 知世(音楽科1年、サクソフォン)

### 宮崎ピアノコンクール

入賞: 横山 夏美(音楽科2年)

## 学ぶこと!「古老との付き合いから」

人間文化学科長 久保 良一

今から、約40年ぐらい前に、80すぎた古老との付き合いが始まりました。その古老は、いつも口癖に、「小学校しか出ておらんとよ」と言っていました。でも一代で会社を設立された方です。いつも、縁側で、小さな机を出して古文書と刀の専門書そして国語辞典を開いて、右手には赤えんぴつを握り、専門書を読んで漢字が出てくると、辞書を引き一字一字、確かめながら調べていました。私にも漢字の意味を聞かれる。この専門書や国語の辞書を見せてもらうと、赤色で染まるぐらい線を引き、繰り返し読み返しては理解している姿がそこにはありました。また、二人で遠くの山々を眺めていると、自分の土地を測る時はどうしたら図れるかと質問されます。答えは、山と山の頂点と自分の位置で三角形を描いて測るのだそうです。話していると、次から次へといろいろな知識や知恵を授けてくださいます。若い時に学ぶ姿勢や大切さを教えてもらいました。

学生の皆さんは、学校や地域社会で人との付き合いの中で学ぶ

ことが多い。先般、本学科は、インターンシップや医療機関、図書館実習など体験を通して学び、それをキャリアガイダンスの中で発表してもらいました。皆さんが体験前と体験後では目の輝きが違う、堂々と話しをし、そこには成長の証しを感じられます。人は、学ぶことで成長し、その積み重ねが質の高さであるし、それが、「品格」として現れてきます。人間は生涯、学び続けることが大切です。そのためには、いかに意識して学ぶかが、学びの質の高さを決定づけます。お互いに学び続けましょう。



## 学生たちの光り輝く姿

初等教育科長 松野 隆

入学してやがて6カ月になる1年生たちも、2年生のよき指導のもと、いろいろな事を学び、身に付け、それを実践に移しています。サマースクールしかり、オープンキャンパスしかりです。サマースクールでは、教育実習を経験していない学生たちが、暑い夏休みに市内の小中学校で、先生役となって児童とともに、宿題に挑戦します。どのように説明すれば分かってくれるだろうか、自分では分かっていることも児童に理解させるのは意外と難しいことだなと実感している様子が伝わってきます。この経験が学生をさらに成長させる起爆剤となります。また、オープンキャンパスでは、エプロンシアター、パネルシアター、手遊び歌など、学生たちは、小学校での教育活動に欠かせない大事な出し物を高校生の前で演じます。恥ずかしさもあるはずですが、それを乗り越えて行く、学生たちの姿は光り輝いています。1年生の成長の裏には、2年生の温かい指導があり、すばらしさを感じる毎日です。



## 笑顔の素敵な保育士・幼稚園教諭・介護福祉士に

保育科長 野坂 敬

人が輝く時というのは、夢を追い、達成していくときに見せる笑顔と自信の表情であると思います。保育科を卒業された先輩諸氏が後輩に保育や介護について語るとき、子どもや利用者への思いが大切なものとして自然に現れ、さわやかな笑顔とともに自信に満ちた輝く姿を感じさせてくれます。それは、夢であった希望の職場への就職、仕事をやり遂げていることの自信の結果であるのでしょう。

現在、保育を取り巻く環境は、少子高齢や低経済等の影響を受け変革の時期を迎えようと

しています。『幼保一元化』がその大きなもので、様々な経緯を経て『認定子ども園』の拡充に落ち着きましたが、今後、これらの現場では保育士、幼稚園教諭の二つが必要となり『保育教諭』と呼ばれるようになります。幸い、2年間の中でこの資格を取得できる強みを、本学保育科は長い伝統とともに築いています。また、その上に立つの「介護福祉士」取得も本学の特徴となっています。長い伝統に支えられて、夢をかなえていく学生の明日もきっとさわやかな素敵な笑顔となって現れることでしょう。



## Fall Revolution

~集え!!黄金の樹の下へ~

学友会副会長  
前田 由貴利

2年生には、最後となる大きな行事、秋の忍ヶ丘祭。就職活動等でなにかと忙しい時期ではありますが、全員で一致団結し春の忍ヶ丘祭に続く大きな革命を起こしたいと思います。そして、みんなの心に残る大切な思い出に出来るような、また、これからの活動源になるような秋の忍ヶ丘祭にしたいと思ひます。

学校、地域全体のご協力の元、大きな革命を作り上げたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

## 秋の忍ヶ丘祭に向けて

秋忍実行委員長 上原 唯

沢山の笑顔が溢れる秋の忍ヶ丘祭。そのような当日の華やかなイメージを膨らませながら、学友会・実行委員一同、力の限り準備に取り組んでいます。今年度は学内で盛り上がるのはもちろん、地域の方々にも参加していただくことを目標とし、ステージや模擬店、様々な企画を計画しております。ゲストには「あきらちゃん&ラーメンちゃん」をお招きしました。学生の夢、そして地域の子どもの夢に、きっと繋がる貴重な思い出になると思ひます。今年度の秋の忍ヶ丘祭は、10月27日(土)・28日(日)と2日間に渡って開催させていただきます。皆様のお越しをお待ちしております!

## 本学のキャリア教育

キャリア支援課長 久保 良一

現在、人間としての在り方生き方が各方面で論議されているが、本学の人間としての在り方生き方教育、つまり「キャリア教育」について、平成23年度から科目「キャリアガイダンス」として、1学年全員を対象に必修1単位通年、全教員で指導し、指導テキストは教員用、学生用としてキャリア支援室で作成した。今年度は前年度の反省を踏まえ、保育科と3学科(初等教育科・音楽科・人間文化学科)を分離した。保育科では、1年生を対象に科目

「忍ヶ丘学びのサポート」(必修1単位通年)に位置づけ、その他の3学科は、全員一堂に会し、科目「キャリアガイダンスI」(前期必修1単位)で実施し、「キャリアガイダンスII」(後期必修1単位)は、指導形態・指導内容について各学科の特色に合わせたキャリア教育とした。



### 「路」—キャリアガイダンスの取り組み—

3学科の科目「キャリアガイダンスI」(前期)、「キャリアガイダンスII」(後期)について記述すると、「キャリアガイダンスI」については指導目標を「社会人として成長するために求められる人生設計、仕事を遂行できる」とし、また「キャリアガイダンスII」については「キャリアガイダンスI」と各学科の特性を踏まえ、「社会人として成長するために、目標を設計して人生設計、仕事をしっかりと遂行できる」とした。キャリアガイダンスは、3学科の学生を横断的に各班編成としそこに1名の指導教員を配置した。また、班

は、2ヶ月に1回は入れ替え、多くの学生とコミュニケーションが取れる形態とした。前期は9月13日の授業が最後であったが、評価に値する「路」の指針になったと確信する。「キャリアガイダンスII」(後期)は、各学科の特色を生かした指導内容となっている。例えば、人間文化・音楽科では、企業等の志望者が多いため、一般常識はもとよりSPI2を指導し、より実践的な指導内容とした。成果が期待される。本学のキャリア教育については、全国的にも先進的な取り組みをしていると自負しているところである。

### 「忍ヶ丘学びのサポート」の取り組み

この科目は、平成23年度に全学科の1年生向け初年次教育科目として開講されました。初年次教育とは、短大に必要な学習方法を教授し、短大生活に早期に慣れてもらうことを目的としたものです。今年度からは保育科1年生向けの科目へと姿を変え、保育科の全教員が、1人あたり約10名の学生を担当し講義する形となりました。

今年度は、第1には短大生として/保育者として必要なリテラシー(情報に関する読み書き能力)を育成することを、第2には、久保課長

が書かれておられるような、自らのキャリアを自らで開拓するための力を育成することを、主な講義目標として位置付けております。こうした目標を全教員が共有し、学生が自らの力を伸長する上で効果的な内容を教員間で模索・議論しながら、講義を進めています。今後も、学生のニーズを汲み取りながら、より効果の高いものとなるよう、講義内容と講義形態の改善を図る所存です。